

令和7年度第2回学生と教員とのFD懇談会実施記録

期 日：令和7年12月22日（月）17：00～18：40

場 所：八木山キャンパス1号館3階133教室

出席者：学生6名、FD・IR企画部会委員から7名、

内部質保証推進委員から教職員3名、カウンセラー1名、事務局

小林FD・IR企画部会委員長から、FD活動および学生FD懇談会の趣旨が説明され、学生には自由かつ率直な意見を述べてほしいと呼びかけ、懇談会が開会された。

前回に続き、グループワーク形式を採用し、参加者をA・Bの2グループに分けて実施した。

[Aグループ]学生4名（電気電子工学科、都市マネジメント学科、環境応用化学科）および教職員5名

[Bグループ]学生4名（建築学専攻、生活デザイン学科、経営デザイン学科）および教職員5名

授業について

○コロナ期の入学で最初から交流が少なく、「大学生活の実感」を持ちにくい状態でスタートした。授業での出来事をきっかけに大学との間に距離ができたこともあったが、今振り返ると自分自身の受け止め方の問題も大きかったと思っている。

○オンラインと対面が混在していた時期は、オンライン授業を後回しにしてしまい、学修の積み重ねがうまくいかなかった。結果として修学計画を見直す必要が生じた。

○家族としっかり話し合ったことが大きな転機になった。生活を見直し大学に通うことを優先するように変わった。

○第一志望ではなかったことや、文系出身で理系科目に苦手意識があり、当初はミスマッチを感じていた。教員の指導や学外活動との関わりが、学びの方向性を見直すきっかけになった。

○1～2年次の教養科目では物足りなさを感じていたが、3年次以降に専門科目に触れ、「理解したい」という気持ちが強まり、学修への姿勢が前向きに変わった。

○単位取得を目的にしているときは意欲が湧きにくかったが、教員の実務経験を交えた講義では内容に引き込まれ、学ぶ面白さを実感できた。

○学びの方向性を見直したことで、自分に合っていると感じられる学びに出会えた。フィールドワークやプレゼンテーションにも積極的に取り組んでいる。

○教員からの挨拶や何気ない声かけが、授業に向かう気持ちを大きく左右することがあると感じている。

○オンライン授業は受講のしやすさという点では助けになったが、学生同士のつながりが生まれにくかったとも感じている。

支援について

○教学アドバイザーやカウンセラーからの電話や声かけが、大学に足を運ぶ習慣を取り戻すきっかけになった。

○カウンセラーを通じて、親との関わり方を教えてもらえたことは良かったと感じている。

- 特別な配慮があったことで気持ちに余裕が生まれた一方で、配慮の在り方については学生によって受け止めが分かれると感じている。
- 授業時間が100分である理由について、最初に説明があると理解しやすいと感じた。
- 理解が難しく、複数回履修することになった科目では、内容が専門分野とどうつながるのか分かりにくさを感じた。
- 就職支援については、より早い段階から実践的な取り組みがあると安心できると感じている。
- 進学や研究職を含めた多様な進路について、早い時期から情報提供があると助かる。
- オープンキャンパスなどの大学主催イベント運営への参加を通じて、大学との距離が縮まったと感じている。
- 入学前スクーリングや初年次オリエンテーションは、将来を考える上で有効なので、もっとあって良いと感じる。

その他要望

- 課題は、できるだけ授業内で完結できる形が望ましいと感じている。
- 食堂の営業時間をもう少し延ばしてほしい。
- 中間テストがあると、学修状況を把握しやすい。
- 入学初期の友人づくりを支援する機会があると心強い。
- 大学院進学に関する経済的な支援の充実を期待している。
- 選択科目の幅が広がると、興味関心に応じた学びができる。
- 休学期間中も、希望者が相談できる機会があると再スタートに向けて心強い。

ブランディングに関するアンケート

- 大学のスローガンは何となく理解しているが、自身の学びとの関係を説明するのは難しいと感じている。
- 大学祭やオープンキャンパスなどの行事では、学生同士や組織としての一体感を強く感じる。
- 学外イベントで大学の象徴となるアイテムを共有すると、帰属意識が高まると感じた。

最後に、学長からは、学生一人ひとりの状況や背景を踏まえ、多様な相談ルートを用意することの重要性が示された。今回寄せられた声は、今後の教育・学生支援の充実に活かしていくとのコメントがあった。



学生 FD 懇談会における学生からの要望と対応案について

共通学生調査・授業評価アンケートについて

共通学生調査の設問数の多さによる負担や、授業評価アンケートが無記名であることの認知不足、中間授業評価アンケートが授業改善に反映されていないとの意見があった。これに対し、共通学生調査の設問数削減を進めるとともに、授業評価アンケートの無記名性を周知し、中間評価の結果を授業改善に反映するよう教員へ周知する。

教育内容・授業運営について

共通学士力の内容が十分に伝わっていないことや、一方的な授業形式、クラス間での課題・評価方法の差、授業と専門分野の関連の分かりにくさなどに加え、100分授業や授業外課題、中間試験、文系科目の充実に関する意見があった。これに対し、共通学士力の説明方法の改善を検討するとともに、授業評価アンケートの結果を踏まえた授業改善を教員へ周知・共有する。また、評価基準の統一を再周知し、100分14回授業は90分15回授業に比べ学生・教員の自由な時間や研究時間の確保を目的とすることを説明する。さらに、授業外学修は必要なものとしつつ、教育課程の見直しの中で科目の充実を検討する。

学生支援・キャリア支援について

カウンセリングルームの利用ハードルや認知度の低さ、就職支援の開始時期、キャリアデザイン科目の改善、交流機会、大学院進学支援、休学中の面談に関する意見があった。これに対し、「学生相談室」への名称変更と周知を行い、就職支援やキャリア教育は早期から実施する。交流イベントは導入済みであり、大学院進学支援の充実や休学中の面談にも個別に対応する。

出席管理・授業マナーについて

体調不良時の欠席対応や授業中の私語・スマートフォン使用、出席状況の修正、不正利用対策について教員ごとの差に関する意見があった。これに対し、欠席は原則として感染症以外は欠席扱いとし、出席修正は担当教員への相談を案内する。また、私語やスマートフォン利用には注意を行い、授業環境の維持に努める。

学内施設・設備について

生成 AI を利用した課題提出の不公平感や、ラウンジ給湯器やコインロッカー設置、教室 Wi-Fi 改善、食堂営業時間延長、喫煙所増設、必修科目 5 限目開講の見直しなど、学内施設・学習環境に関する要望があった。これに対し、提出物は担当教員が確認し適切に対応し、施設・設備の要望は今後の環境整備や運用見直しの中で検討する。